



東近江市民クラブ

多文化は共生できるのか



Q 増加する外国人の現状について、

①直近と10年前の市内の外国人人口と全人口に占める割合は。

②外国人比率が15%を超えている町名および20%を超えている町の数は。

③国民健康保険で問題は発生していないか。

④地域コミュニティ形成上、問題や課題はないか。

A ①9月1日現在5110人割合は4・6%で、10年前は2578人、2・2%でした。

②9月1日現在15%を超えている町は御園町、五智町、中小路町、八日市緑町、幸町、東沖野四丁目、紅葉尾町、梅林町、下岸本町、外原町、市子殿町の11町です。

このうち4町が20%を超えています。

③窓口業務では、通訳やタブレットなどを活用しながら制度や申請手続の案内をしています。

④地域コミュニティ形成上、問題や課題はないか。



交流事業の様子

明に時間を要する場合もあります。また、言語や制度理解が乏しいことなどにより滞納となる事業や、短期間で日本を出国されることで保険料納付への優先度が低くなることから、滞納となる事業が見受けられます。

④地域での共生の在り方が課題です。特に、言語や生活習慣の違いから、生活ルールや地域活動の内容が十分伝わらず、日常生活上の問題や地域住民との交流もイベント参加程度に限られるなど、さまざまな課題があると認識しています。



東近江市民クラブ

市道整備の進捗状況と今後は



Q 蒲生地区の市道改良事業について、

①市道桜川石塔線道路整備の進捗状況と事業完了時期は。

②市道鈴宮川線道路整備の進捗状況と今後の取り組みは。

③市道川合工業団地線道路整備の事業着手予定と今後の取り組みは。

A ①整備は合併以前から着手しており、長い期間を要しましたが、ようやく全線開通の目途が立ちました。

事業完了に向けた工事の請負契約が締結され、工事着手に向けて準備が進められており、令和8年3月の全線供用開始を目指して、工事を実施していきます。

②用地測量が完了し、今年度から用地取得に取り組んでいます。

今後、事業用地の確保ができ次第、工事に着手していきたいと考えています。

③大型車の離合が困難であった



開通間近の市道桜川石塔線

ため、近隣地元企業から早期の改善要望があり、ようやく事業化する運びとなりました。

道路改良の整備内容は、道路の線形改良と縦断修正、工業団地側に幅2・5メートルの歩道の設置、近江鉄道の踏切幅が狭いことから現状踏切幅6メートルを11メートルに拡幅する計画です。

今年度から用地測量を進めており、早期の工事着手に向けて取り組んでいます。



東近江市民クラブ

市の独自政策のアピールを



Q シティプロモーションによる女性の地方回帰策について、

①女性や若者に向けたシティプロモーションの取り組みは。

②自慢できる本市ならではの子育て施策は。

A ①若い世代がよく利用するSNSを活用し、本市の魅力ある食や文化芸術イベント、四季折々の豊かな自然の画像や動画などを発信しています。

②全国に先駆けて実施した見守りおむつ宅配便が挙げられます。また、認定こども園の整備による子育てと仕事の両立支援、妊産婦を含む医療費助成の拡充、市内13カ所に設置したつどいの広場など、このまちにも負けない子育てしやすいまちを目指して取り組みを進めています。

Q 本市が独自に行っている高齢者福祉の施策やサービスは。

A 自分らしい生き方を後押しするための、みらいノートの活用や高齢になっても地域で安心



Q 滋賀県予算編成に向けての政策提案のうち、直接知事に提案された最重点項目「一級河川愛知川の清流を取り戻す流域政策について」の提案に対する県の回答、見解は。

A 愛知川の清流を取り戻す流域政策は、市も含めた関係機関と連携を図り部局横断的に検討を図っていくとの見解でした。

源流部の濁水対策や森林保全については、どこで何が起きているのか原因をしっかりと把握する必要がある、そのため衛星画像データを活用して愛知川上流部の森林状況を把握する取組を開始し、森林整備や治山事業につなげていきたいとの回答でした。また、専門家からの科学的な知見を聞き、今後の方針を検討し、関係者で構成する地域協議会の設置を検討していくとのことでした。

永源寺ダム管理については、ダム湖内の堆積土砂の定期的な撤去や下流河川への置土事業を



いつまでも濁りがとれない愛知川（令和5年撮影）